



第 30 回

みんなの力で大樹にしよう

平成 29 (2017) 年 7 月

平成 14 年、双葉だった夢アイデア事業は中樹にまで成長しました。効用として、① 社会的価値の創出、② 私たちの CSR (社会貢献活動)、③ 参加者の自己実現の手段 (= 学び舎)、といったことが見えてきました。

確認したいことは、果たしてこの事業がトレンドか、という点です。

終戦後、食うことにも事欠いた時代、ほしいもの、価値あるものは明白で、復興と繁栄を目標に国民一丸となって追求してきました。あれから 70 年余、一応の達成を見た今日、次なる目標を見失っているように見えます。国際的なパワーバランスの変化等々、未来は予見しにくい中、誰も時代をブレイクスルーする何かを求めているようにも見えています。

世界は技術革新にしのぎを削っています。中でも情報理工系の加速度的進展には目を見張るものがあります。人工知能 (AI) やロボットが登場し、人手不足を補う期待を担う反面、今後 10 年~20 年ほどで約 47% の仕事が自動化されるリスクが高いという、オックスフォード大学の研究もあるようです。

では、今後、私たちはどのような領域に人間らしい活動分野を求めればよいのでしょうか。おそらく、情報技術にとって代われそうな領域ではなく、AI が苦手とするような分野、そしてそれは感性とか価値観の世界ではないかと、筆者個人としては思料しています。

たとえば、AI による囲碁や将棋はルールを指令してはじめて機能するはずですが、では、俳句づくりに五七五のルールを指令した AI は、感動を伴う作品を生み出せるでしょうか……。可能かもしれません。ただ筆者の希望を込めていえば、この領域は最後まで、生身の脳の専売特許であってほしい。価値観や感性の世界は、理詰めで結論が出る性質のものではないので、その可能性も十分考えられることでしょう。

このような領域こそ AI が踏み込めない最後の砦、と思いつつ、①、②、③を鑑みる時、“夢アイデア”は、究極の資源開発を志向し、私たちがエネルギーを注ぐに値する、トレンドなプロジェクトと言えらるるのです。ただし AI を活用できる部分があるならば大いに活用したらよいでしょう。

そこで、さらなる大樹にしたい、その姿を「地域づくり」を念頭に描いてみましょう。① 全国版。全国的視野に立つ取り組みにします。ブロックごとに行い、地域代表が全国大会で競う、のど自慢方式も効果的でしょう。② 地域版。市町村、都道府県など自治体単位で行います。その地ならではの、具体的な夢やアイデアが生まれます。③ 各国・国際版。まずは、各国にある「日本人会」での取り組みと発掘された優良案件の ODA 活用が考えられます。

実施上の留意点として、① 一回で止めることなく繰り返す、② 珍案、迷案も切り捨てずに保存、開陳しておく、③ 夢アイデアの交流の場をもつ、④ 実現のためにまず一步を踏み出す、最後に、⑤ 望ましくは、事業名に“夢アイデア”の文字を付し、誰もがピンとくるようにしたい、といったところです。以上を、夢アイデア五原則、とも呼んでおきましょう。ぜひ、ご一緒に、大樹にしようではありませんか！

針貝 武紀

初代夢アイデア企画委員長 現・特別顧問